

たいようぐみ

秋を感じて...

仁和寺や仁和寺の裏山、保育園近くの公園で秋探しを楽しんでいます。どんなりやくめい、ツウの実、木の葉...色々な自然物を見つけて袋い、大事に持ち帰ります。きれいに色づいた落ち葉は本に残して押し葉にしました。11月からお屋寝が少しずつ減り、活動時間も短くなっています。出掛ける機会も増え、一日たっぷりと好きな遊びを楽しんでいる子どもたちです。今のところ無理なく過ごせているので、12月よりお屋寝をなくしていく予定です。12月は拾ってきた自然物を使って造形活動を楽しんでいきたいと思います。

クリスマスごっこ

去年から、「たいようさんにならてんしたい」と、聖誕劇をすることを楽しみにしていました。園長先生からクリスマスのお話ををしてもらい、「へえ～かいばおけってうまがごはんたべるいれものなんや」、「へいしたいってつよくてこわそう」と、今まで矢口なかった物語の背景をくわしく矢口り、ますます興味が湧いた様子です。自分のやってみたい役を何度もやる中で、それをイメージをつかめました。当日演じる役を決める時は、友だちとやりたい役が重なると、「まくはこうだからこの役やりたいねん」「ゆすってあげたいけど、まくもやりたいし...どうしよう」と自分の思いをしっかりと言葉にして話し合い、みんな納得の上で決定しました。これからそれぞれの役で話し合いを重ね、どんなセリフにするか、どういう風に動くか考え、子どもたちと台本を作っています。今年のたいよう組らしい聖誕劇になるよう、全員で進めたいと思います。



サッカーやってます！

公園に行く時はボールを持って行って、サッカーをする事が時々あります。初めては数人でやっていましたが、「おもしろそう」とどんどん参加するようになり、サッカーのゲームらしくなってきました。そこで「サッカー経験のある園長先生にお願いし、一番者にあるぶことに。ウォーミングアップの鬼ごっこや手つなぎ鬼、マーカーまでドリブルしてり帰ってくることを遊びの中で楽しめ、それからゲームが始まります。また、木手のゴールにボールを入れると簡単なルールだけですが、ボールを運びながら周りを見る、足で細かく操作するといったことは、子どもたちには簡単ではなく、苦戦する姿もあります。

それでもみんないい表情でボールを追いかけ、ゴールすると喜び合い、いつも身体を開放してあそぶ姿に、サッカーから学ぶことがたくさんあるなあと思います。続けて楽しんでいきたいです。

かぜ、そら、たいよう クラスだより

円町まぶね幼稚園

2022.11.30

117

朝、夕、めっきり寒くなって、季節も秋から冬へとそり變わろうとしています。それでも子どもたちは元気いっぱいで、秋の“いいもの”を楽しんでいます。(2月) クリスマスのことを矢口り、楽しみにして過ごしていきたいと思います。

そらぐみ

葉っぱも完全に色づき、もうすっかり秋ですね。外に出て、周りを見るときれいに色づいた落ち葉がたくさん落ちているので、お土産として持て帰ってきたり、葉っぱのお面にしたりして遊んでいます。

子どもの精神面でも変化があり、今までよりさらにルールのある遊びを楽しめるようになりました。独自にルールを追加させながら友だちと一緒に過ごしています。チームに分かれている遊びでは、以前では応援をするということが少なかったですが、同じチームの中で負けないと強い思いがあり、「がんばれ」「さいこまで」と声かけをしています。ルールのある遊びだけではなく、個人的な遊びの中で友だちが頑張っている姿を見ると、自然と「がんばれ」という言葉が出てくるようになりました。そして、友だちが出来たことを一緒に喜び合い、さらに友だちとの関係を深めています。運動会という大きな行事を乗り越えたことで身も心も成長し、どんどん大きくなっています。

来月には、クリスマスの聖誕劇もあり、そらぐみの子どもたちはマリアエンとヨセフさんを迎える「宿屋役」として参加します。クリスマスのお話を絵本やペーパーサートを見て、お話の理解を深めているところです。歌や振りを合わせつつ、友だちとあわせたり来年度に向けての憧れを抱きながらみんなで頑張っていきたいと思います。

園外保育

この日は朝から「お弁当の日」として楽しんでいます。いつもと違い、外でご飯が食べられる喜びや少し遠出をし、どんなところに行くんだろうというワクワクの気持ちがよく伝わってきます。一人ひとり自分のマークが入った名札を大人につけてもらうとさらに嬉しそうです。公園に着いた時から、「もうお弁当食べたい」と言います。「まだ早い」という保育者とのやり取りが恒例になりました。行き先が普段はちょっと遠くて行けない場所だったりもするので、「よし、かくれんぼや」と言い、ゲームをしつつ、一人ひとりが発見を楽しんでいます。保育者がお弁当の声かけをすると、一齊に集まり準備をしていました。おうちの人を作ったお弁当が本当に楽しめて、「外で食べるといいかな」とみんなで食べられる喜びを笑に感じていました。

いちごを育てる

春に栽培する野菜を決める時に子どもたちから意見が出ていたいちご。今月、みんなでティオハウスまで買いに行ってきました。グループごとに発芽場を回ってどのいちごにするか探していました。グループで1つだけ選ぶので、みんながはらはらのものを選んでしまったら、どうするんだろ？と様子を見っていました。すると、やはりグループ内でも違うものをそれぞれ選んでいたのですが、友だち同士で「どうしよう」「これが良いと思うんだけど...」と相手の出发を伺うように話している姿を見ました。1つか選べないから、じゃあどうするかと言うことで子どもたちの中で「お友だちの話を聞かないといけない」という心の葛藤を感じました。しばらく団まつて相談するグループもあれば、「もうこれでいい」とあっさり決まるグループもありました。

買って来たものを屋上のプランターに埋め、今は毎日水やりをしています。ゆっくりとパブリカを長いことお世話をしたのですが、また新たな楽しみが出来、成長を見守っています。

かぜぐみ

○園外保育

先月に引き続き3回目の園外保育です。お弁当には何を入れてもうかの話で友だちと盛り上がりそのままあります。公園では何して遊ぼうか、期待を膨らませていた子どもたちです。最近は「鬼ごっこ」から次は「氷泉」というふうに変化させて遊び方があり、鬼にタチされ、氷にのよって固まに友だちをタチして、もう一度逃げられるように助けることが楽しいようで、友だち同士で協力合いながら楽しめます。たるまんがころんだ「も何度かクラスで遊びうちに、友だち同士で『やろう』と説いて、始めう姿も見られるようになりました。出発前に小雨が降っていましたが、すぐに止んで良いお天気の中、無事に出発することができました。行くまでの道にも、赤やオレンジに色付いた木があり、公園には大きはイチョウの木があって黄色くきれいでした。「うわ～きれい！」と喜びながら公園に入ってきたと、銀杏の実が落ちていて、「うわ～」と思わず息をつく子どもたちです。足を踏まないよう、つま先歩きで「くさい」と思わず鼻をつまむ子どもたちです。足を踏まないよう、つま先歩きで上手に上げて歩いていました。道具やたぬきや木登りなどをして遊びます。木登りでは「どうせこのぼるのー！」と足をどこにかけて良いか、どこを握ったら良いかと苦戦していましたが、徐々にコツを掴んで、自分で登れるようになります。秋の自然を感じてみながら户外で遊びながらできて良かげです。

○相手の思い 自分の思い

自分の思いが強く次で相手の思いをよく受け入れることが難しい場面が多いですが、自己主張しながら相手の思いに負けてしまます。11月からセミ組にも新しい友だちが増えて初めて庭園は3日を心待ちにする機会となりました。子どもたちなりに様子を伺いつつ、少しづつ関わる機会を深めています。親切を経て、一緒に遊び樂めを感じ、一人ひとりが自分の思いを出しながら、お互いに分かるようにしていきたいと思います。何がうれしかったか、何が悲しい気持ちの時、「どうにかったのかな？」、「どうしたらいいと思う？」とクラス全体にも投げかけ、みんなで考え合い、失敗し、気持ちに寄り添って考えることができるように仲立ちしていきたいです。

○おはし

給食時、スプーンを合わせてお箸を使う子どももいます。お箸ではお箸を使われているご家庭も多いかと思いますが、スプーンの握り持ちから逆手持ち、そして斜め二重握り持ちが出来るように이며、これ金棒持ちが出来ていること、お箸へスムーズに移行しやすいと言われています。正しくお箸を持つ時は、手首や指先を上手に動かす力が必要です。無理にお箸を持つ時は、手首や指先をついてしまったり、持つことが苦痛になってしまったりすることもあります。園でもスプーンを正しく持つよう声をかけたり、お箸の練習としてスパイシーなどを握りこなししてから移行を避めていいます。友だちや大人の持つ姿を見て、お箸に興味を示し、使ってみたい！と思われるある子どもたちの姿があるので、その気持ちを大切に。お家の方と連携しながら焦らず進めていきたいと思います。

